令和７年度　上八万小学校総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指数と活動計画	評価指数の達成度	総合評定		
学校運営	(1)学校教育目標（学校経営方針）は、子どもや地域の実態にあっている。 (2)学校教育目標に向かって、学校運営をする。	・保護者アンケートの「学校は、保護者や地域の願いにこたえた教育活動を行っている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・学校教育目標達成の指数の一つとして、アンケートの「学校に来るのが楽しい」（児童）、「楽しく学校へ行っている」（保護者）の項目を90%以上にする。	・保護者アンケートでは「学校は保護者や地域の願いにこたえた教育活動を行っている」について、Ａ、Ｂ合わせて93%の回答であった。 ・児童アンケートでは「学校に来るのが楽しい」と回答したのは89.8%（2%増）であった。また、「楽しく学校へ行っている」と回答した保護者は94.1%（4.2%増）。	B	・「学校に来るのが楽しい」と回答した児童が増えていることは良いことなので、これからもそのような学校にしていってほしい。	・「学校へ来るのが楽しい」と思っていない理由の一つに、ゲームやインターネットへの影響もあると考える。学校行事の見直しや楽しい学級経営をめざすとともに、情報モラルの保護者への啓発も行っていきたい。
		評価指数と活動計画	評価指数の達成度			
情報発信	学校公開や情報発信に努める。 （参観授業・オープンスクール・学年だより・ホームページなど）	・保護者アンケートの「学校は、学校行事や子どもの様子などを、わかりやすく伝えている。」については、評価指数を80%以上にする 。 ・マチコミメールやホームページを活用し、情報を迅速に伝えるようにする。 ・行事予定等は、可能な限り早い段階で正確な情報を提供する。	・保護者アンケートの「学校は、学校行事や子どもの様子などを、わかりやすく伝えている。」については、86.6%の回答を得た。 ・警報等の連絡及び周知内容等の情報については、マチコミメール等を使い迅速に伝えるように努めた。また、ホームページの更新回数を増やし学校の様子をこまめに伝えた。 ・PTA総会資料に行事予定を加えたり、可能な限り早く保護者へ連絡したりした。	A	・紙媒体で知らせていた連絡をメール等で知らせるのは時代の流れに沿っていていいことであると思う。保護者も安心して情報を得られている。	・ホームページの更新回数を増やしたものの、閲覧数があまり増えていないので、学年だより等を通じて、ホームページの広報も行っていく。 ・今年度途中から取り入れた連絡アプリ「すぐーる」を活用して、情報を迅速に伝えるようにする。
		評価指数と活動計画	評価指数の達成度			
保護者との連携	(1)保護者からの連絡や相談に、適切に対応する。 (2)保護者と連携し、子どもの成長を支援する。	・保護者アンケートの「学校（教職員）は、いじめや差別のない学校･学級づくりに取り組んでいる。」「学校（教職員）は、保護者からの相談に誠実に応じている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・児童､保護者の気持ちや願いに寄り添いながら、家庭と学校の両輪で子どもを支援していく。	・保護者との連携については、「学校（教職員）は、いじめや差別のない学校･学級づくりに取り組んでいる。」が89.1%、「学校（教職員）は、保護者からの相談に誠実に応じている。」92.5%であった。 ・教職員の「保護者と連携し、子どもの成長を支援している」については100%の回答であった。	B	・保護者との連携をとることによって人間関係も深まり、子どもたちにも良い影響を与えていると思う。	・問題が起こったときだけ連絡をするのではなく、子どもの良い言動が見られたときにも保護者へ連絡をするようにし、学校からの連絡がマイナスのイメージにならないように努める。
		評価指数と活動計画	評価指数の達成度			
児童理解	児童理解に基づき、一人一人のよさが生かされる学級経営に努める。	・保護者アンケートの「学校（教職員）は、子どものことをよく理解しようとしている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・児童アンケートの「なやんだり困ったりしたときには、相談している。」については評価指数を90%以上にする。	・保護者アンケートの「学校（教職員）は、子どものことをよく理解しようとしている。」と回答したのは93.1%であった。 ・児童アンケートの「なやんだり困ったりしたときには、相談している」と回答したのは83.5%であった。	B	・子どもが悩んでいるときにどうすればよいのかを教えてやってほしい。一人で抱え込む子どもがいないよう、よく見てやってほしい。	・教師と子どもや子ども同士で相談し合えるような人間関係を築いていく。また、長期休業明けには登校渋りが出やすいので、無理なく学校生活のスタートが切れるよう時間割等も工夫改善していく。
		評価指数と活動計画	評価指数の達成度			
学力向上	(1)各教科の指導内容について、基礎基本を明確にし、わかる授業の工夫をする。	・保護者アンケートの「学校（教職員）は、わかりやすい授業をしている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・児童アンケートの「学校で勉強していることがよくわかる。」については、評価指数を90%以上にする。 ・授業で学んだことを定着させたり、読解力を高めたりする時間を、学校生活の中で効果的に取り入れ、学力向上につなげる。	・教職員は、普段から指導方法の工夫・改善に取り組んでおり､「わかりやすい授業をしている」と回答した保護者は91.6%、児童は92.4%であり、工夫・改善の成果が出ている。 ・朝の活動である「せきいんタイム」（15分）も児童の中に定着し、学習全般に対し、落ち着いて取り組めている。	A	・先生方が工夫して授業をしてくれていることは、子どもの様子や参観授業でよくわかる。	・「めあてとふりかえり」の整合性(指導と評価の一体化）を意識した授業が行えるよう、教材研究を行っていく。また、出前授業等を積極的に取り入れ、プロや専門家の話を聞いたり本物を直接肌で感じたりすることができるようにしていく。

人権教育	(1)差別や偏見・いじめのない学級集団づくりに努める。 (2)よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心を育成するように努める。	評価指数と活動計画 ・児童アンケートの「友だちに意地悪やいじめをしていない」「意地悪やいじめのないクラス・仲間づくりにがんばっている」については、評価指数を90%以上にする。 ・一人一人をよく見て、強みやよさを伸ばすような日常的な声かけを意識し、自尊感情を高める。	評価指数の達成度 ・児童において、「友だちに意地悪やいじめをしていない」と回答した割合は91.2%、「意地悪やいじめのないクラス・仲間づくりにがんばっている」と回答した割合は92.3%であった。 ・学校教育活動全体を通して、子どもの小さな変化や善行を見逃さず、教職員のポジティブな言葉かけがよく聞かれた。	B	・いじめによって命を落とす子がないよう、自分の心を大切にする子どもを育ててほしい。	・教職員が「いじめは絶対に見逃さない」という人権感覚を磨き、「いじめは絶対に許さない」子どもを育てる。また、ありのままの自分が受け入れられる学級集団を作っていく。
特別支援教育	(1)特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制を整備する。 (2)通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている子どもに対して、より適切な支援に努める。	評価指数と活動計画 ・教職員アンケートの「特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制が整備されている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・「通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている子どもに対して、より適切な支援に努めている。」については、評価指数を90%以上にする。	評価指数の達成度 ・教職員アンケートの「特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制が整備されている。」については、95.2%の回答であった。 ・「通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている子どもに対して、より適切な支援に努めている。」についても、95.2%であった。	A	・特別支援学級で学んでいることを誤解している子どもの言動があったので、正しく指導してほしい。	・子どもたちの特別支援学級への理解を深めるために、学校全体で特別支援学級との交流の仕方を考えていく。 ・年度初めに各学級で行っている特別支援学級の紹介の時期を工夫する。
基本的生活習慣	子どもに基本的な生活習慣やあいさつが身に付くための働きかけを日常的に行う。	評価指数と活動計画 ・保護者アンケートの「お子さんは、礼儀正しく、あいさつがよくできている。」については、評価指数を80%以上にする。 ・児童の「進んであいさつができている。」については、評価指数を90%以上にする。	評価指数の達成度 ・保護者において「お子さんは、礼儀正しく、あいさつがよくできている」と回答したのは81.2%であった。 ・児童において、「進んであいさつができている」と回答した割合が87.6%、「家であいさつが言えている」と回答した割合は89.2%であった。	B	・挨拶の習慣は、家庭による影響が強いので、まずは各家庭で挨拶の大切さを教えることが重要である。	・教師が率先して挨拶を行うとともに、家庭へ協力のお願いや啓発も行っていく。

「評定」の基準　A：十分達成できた　B：おおむね達成できた　C：達成できなかった